

研究ノート

2021年ロシア極東のシジミ産地について

On Habitats of Asiatic Clams in Russian Far East, 2021

安木 新一郎

YASUKI Shinichiro

抄録

2006年の北朝鮮に対する経済制裁以降、貿易統計上、日本のシジミ輸入の大部分はロシア産が占めることとなった。ところが、2020年2月から2021年12月末まで、ロシアからの輸入量はゼロとなっている。ロシアの日本向けシジミは、沿海地方ナデジディンスキー地区の綏芬河（ラズドリナヤ河）口で漁獲されていたが、2019年から2022年1月末現在までヤマトシジミ漁獲は禁止されている。また、樺太（サハリン）南部の富内湖（トゥナイチャ湖）では、水質悪化によりヤマトシジミの絶滅が危惧されている。

キーワード

ヤマトシジミ、沿海地方、綏芬河、樺太、サハリン

1 問題提起

2006年の北朝鮮に対する経済制裁以降、貿易統計上、日本のシジミ輸入の大部分はロシア産となった(安木 2009、安木 2014)。ところが、2020年2月から2021年12月末まで、ロシアからの輸入量はゼロとなっている。

ロシアの日本向けシジミは、沿海地方ナデジディンスキー地区の綏芬河(ラズドリナヤ Раздольная)河口で漁獲されていたが、2019年から2022年1月末現在までヤマトシジミ(ロシア語で「日本のシジミ корбикула японская」)漁獲は禁止されている(安木 2021)。

本稿では、日本のシジミ輸入統計を確認した上で、ロシアのヤマトシジミ産地である沿海地方と樺太(サハリン)の汽水域を取り巻く環境変化について報告する。

2 日本のシジミ輸入統計

表はわが国の財務省税関統計にもとづく、2012年から2021年までのシジミ輸入量である。

シジミは生きたまま冷凍して輸入するのが一般的であり、貿易統計における「冷凍したもの」と「生きているもの、生鮮のもの及び冷蔵したもの」という区別は、ほとんど意味がない。表からは、中国とインドからの輸入の場合は「冷凍したもの」と申告し、ロシア、台湾、韓国からはおもに「生きているもの、生鮮のもの及び冷蔵したもの」としていることがわかる。

貿易統計上、2020年2月以降、ロシアからのシジミ輸入は止まっている。ただし、2022年1月現在、日本国内でロシア産シジミは売られているので、わずかだが輸入されている可能性がある(写真を参照)。

2020年1月を最後にロシアからの輸入は止まり(安木 2021)、2021年もまた輸入実績はゼロとなった。

「生きているもの、生鮮のもの及び冷蔵したもの」と「冷凍したもの」を単純に合計すると、2021年対日シジミ輸出国と総量は、中国 330 トン、韓国 204 トン、インド 202 トン、台湾 36 トンとなる。2019年までロシアから 3,000 トン弱

輸入していたのに比べるとわずかな量だと言える。

また、韓国はシジミの純輸入国で、他国のシジミを韓国経由で輸入している可能性が高い。

3 沿海地方におけるシジミ禁漁

2020年1月までロシア沿海地方ナデジディンスキー地区の綏芬河口で漁獲されていたヤマトシジミが日本へ輸出されていた。綏芬河口にはダヴリチャンカ町があり、そこにヤマトシジミの漁獲、輸出をおこなうアクワテクノロジー社の工場がある。

2018年の綏芬河口におけるヤマトシジミの漁獲割当量 550 トンの内訳は、アクワテクノロジー社 98.9 パーセント、SKALOPS 社が 1.1 パーセントだった。そして2018年のヤマトシジミ漁獲量は 450 トンだった(以下、データは *Ведомости, 24 декабря, 2021г.*による)。

アクワテクノロジー社の実質的な所有者は、スレプチェンコ沿海地方議会副議長であり、沿海地方の水産業における実力者ダリキン元知事と近しい関係にある人物である。なお、本社事務所はウラジオストク市内にあり、ウラジオストク中心部からタヴリチャンカ町ジヴャトウイ・バル集落まで路線バスで3時間かかる(安木 2017)。

綏芬河口域は 1974 年にラムサール条約の枠内で自然保護区に指定されたが、その後もヤマトシジミをはじめ漁がおこなわれていた。2019 年にミクルシェフスキー知事(当時)は綏芬河口でのあらゆる漁業を禁止した。

その後、ミクルシェフスキー知事が更迭され、コジェミャコ現知事になった現在でも、漁業禁止状態がつづいている。ミクルシェフスキーもコジェミャコも、ダリキン元知事と対立関係にあり、それゆえダリキン派のスレプチェンコのヤマトシジミ事業を妨害しているものと考えられる。

WWF ロシアによると、河口域を自然保護区でなくすために、河口域にヨットクラブやウォーターパークなどを含む複合リゾートを 800 億ルーブル(1,360 億円)かけて整備する計画が持ち上がっている。リゾート開発を担うギブリド社はスレプチェンコが所有しているとされている。

アクワテクノロジー社は、綏芬河口を自然保護区から外すために、収益性を見込めないリゾート開発事業を計画したというのが現地での見方である。

4 樺太の汽水域の水質汚濁

(1) 来知志湖（アインスコエ湖）

来知志湖は樺太中西部にある海跡湖で、間宮海峡とつながっており、ヤマトシジミが生息している。湖では有限会社「アインスコエ」がシジミ漁をおこなっている。年に 1.4 万トンのヤマトシジミを採っても、ヤマトシジミ全体に影響はないと推計されるほど多数生息しているが、アインスコエ社は 2019 年に 620 トン、2020 年に 656.11 トンしか採っていない（Fishnews.ru, 12 февраля, 2021г. (<https://fishnews.ru/news/202508>))。

樺太で商業的にヤマトシジミを漁獲しているのは来知志湖のみで、遠淵（とおぶち）湖（ブッセ湖）や富内（とんない）湖（トゥナイチャ湖）などでも個人的にヤマトシジミが採られている。

(2) 富内湖（トゥナイチャ湖）

富内湖は樺太南部に位置する 2 つの湖からなる。ロシア語では、オホーツク海と細い水路でつながっている小さな湖をイズメンチヴォエ Изменчивое 湖、奥にある大きな湖を狭義のトゥナイチャ湖と呼ぶ。ユジノサハリンスクから 50 キロほどのところにある。

富内湖には推定 10 万トンのヤマトシジミが生息しているが、絶滅の危機にあるとされる。イズメンチヴォエ湖岸では川砂が採取され、オホーツク海とつながる水路の 4 分の 3 が埋まったことで硫化物が増えるなど水質が悪化し、アオコが発生して低酸素状態になったからである（Fishnews.ru, 23 июля, 2021г. (<https://fishnews.ru/news/42262>))。

サハリン州議会では水路の回復が議論されているが、具体的な対策の策定および実施に至っていない。

樺太では「サハリン 2」のように、天然ガスの採掘、液化、輸出とこれらに付随する産業開発がおこなわれており、建設資材として重要な川砂の需要は旺盛だ

と考えられる。今後も富内湖における川砂採取はつづくだろう。

5 まとめにかえて

沿海地方では、環境保護を名目としてヤマトシジミ漁が禁止されているが、現在、より大規模な環境破壊をもたらしかねない計画が進行中である。世界最大の天然ガス生産企業ガスプロムは、沿海地方ハサン地区ペレヴォズナヤ小湾にLNG（液化天然ガス）専用港を建設しようとしている。ハサン地区は中国だけでなく北朝鮮とも国境を接している。ハサン地区の面積の3分の2は「ヒョウの大地」国立公園として、貴重なアムールヒョウやアムールトラなどの保護地帯となっており、ペレヴォズナヤ小湾はアムールヒョウの主たる生息地に接している（安木2013）。

シベリアからペレヴォズナヤ小湾まで引かれるパイプラインは綏芬河下流域をまたぐため、河口に土砂が流れ込むなどすると、ヤマトシジミの生育環境も著しく悪化すると考えられる。

ロシアでは政治的な混乱に加え、資源開発によりヤマトシジミの生育環境が破壊されていっている。日本はもはやシジミを外国に依存することができなくなった。国内産地での増産が喫緊の課題だと言えるだろう。

また、安木（2021）でも指摘したように、綏芬河口では2018年に450トンのヤマトシジミが漁獲され、2019年はゼロのはずである。しかしながら、表を見ると、2018年も2019年も3,000トン近いシジミを日本はロシアからシジミを輸入していることになっている。「ロシア産シジミ」が実はロシア産ではなかった可能性がある。

付記

本稿は、京都大学経済研究所・共同利用・共同拠点・2020年度プロジェクト研究「海外直接投資と取引費用に関する研究：共通通商語の役割に焦点を当てて」（研究代表者：徳永昌弘・関西大学教授）における研究成果の一部である。

参考文献

安木新一郎 (2009) 「ロシア産シジミ輸入の動向」『ロシア NIS 調査月報』、54 (2)、2009 年 2 月。

安木新一郎 (2013) 「ロシア沿海地方ハサン地区における LNG (液化天然ガス) 事業について」『ロシア・ユーラシアの経済と社会』、971、2013 年 7 月。

安木新一郎 (2014) 「ロシア産シジミの輸入状況、2006 年～2012 年」『国際研究論叢』、27 (3)、2014 年 3 月。

安木新一郎 (2017) 「ロシア・ユダヤ自治州をゆく」『京都経済短期大学論集』、24 (3)、2017 年 3 月。

安木新一郎 (2021) 「2020 年シジミ輸入動向：ロシア沿海地方におけるシジミ禁漁を中心に」『ロシア・ユーラシアの社会』、1056、2021 年 5 月。

日本国財務省貿易統計。

Ведомости

(https://www.vedomosti.ru/ecology/protection_nature/news/2021/12/24/902543-v-primore-sobirayutsya-sozdat-kurort-na-meste-pamyatnika-prirodi) (ロシア語) (最終閲覧日：2022 年 2 月 14 日)

Fishnews.ru (<https://fishnews.ru>) (ロシア語) (最終閲覧日：2022 年 2 月 14 日)

表 日本のシジミ輸入量、2016年～2021年

冷凍したもの

単位：トン

	2016	2017	2018	2019	2020	2021
中国	0	428	555	453	493	290
台湾	0	0	1	0	0	0
ロシア	0	0	50	0	0	0
インド	0	211	97	101	100	202
計	0	639	702	555	593	492

生きているもの、生鮮のもの及び冷蔵したもの

単位：トン

	2016	2017	2018	2019	2020	2021
韓国	0	0	0	0	99	204
中国	0	0	0	40	21	40
台湾	269	156	121	44	230	36
ロシア	2,648	2,941	2,921	2,797	213	0
計	2,916	3,096	3,042	2,882	563	280

出所) 日本国財務省貿易統計より筆者作成。

写真 (筆者撮影)

左：2019年に国内で購入したロシア産ヤマトシジミ

中：2022年1月に国内で購入したロシア産ヤマトシジミ

右：青森県産ヤマトシジミ (小売店で購入したもの)

